

ぶどうの作業防除暦

(品種：ピオーネ、ベリー-A、藤稔、紫玉、キャンベル、ネオ・マスカット)

農業の適正使用基準を守り安全・安心な果物を生産しましょう！

(栽培管理日誌を記帳しましょう！)

作成 J A 岡山
協力 J A 全農おかやま
作成日 平成 19 年 11 月 16 日

平成 20 年度版

月別	旬別	栽培管理		病害虫防除		
		生育過程	重点作業	重点防除	応急防除	注意事項
1			せ ん 定			
2	上 中 下		棚の修理 主枝の結束			黒とう病、晩腐病の伝染源となる巻づるを切る。 カイガラムシ、トビイロトラガ、ハダニの多発した圃では粗皮を削ぎ、焼却処分する。 ハウス栽培では2月中旬にフェロモン剤のヨトウコンーH、ハマキコンーNを利用し、ハスモンヨトウ、ハマキムシを交信攪乱する。
3	上 中 下	溢 泌 期 (ブリージング)	ビニール被覆 除		白 紋 羽 病 被害樹にはフロンサイドSC 500倍液を1樹当り50~100% 又は、1,000倍液を100~200% 土壌灌注する。	フロンサイドSCを白紋羽病の予防剤として使用する場合は 1,000倍液とする。 ブドウトラカミキリの被害変色部をねらって殺殺する。 晩腐病、褐斑病の多発圃では2回防除する。 第1回目はベフラン液25の250倍液を単用散布し、第2回目は りんぼうがゆるみ、毛じが見える頃にベンレートT水20と石灰 硫黄合剤を散布する。 PO系フィルムは石灰硫黄合剤に弱いので散布に注意する。 ブドウスカシバ、ブドウトラカミキリ被害枝は4月中旬に焼却処分 する。 カスミカメ、アカガネサルハムシの発生に注意する。
4	上 中 下	催 芽 期 発 芽 期		(発芽前) 晩腐病、黒とう病 カイガラムシ類 ハダニ類 ベンレートT水20 200倍 石灰硫黄合剤 7倍	褐 斑 病、 晩 腐 病 ベフラン液25 250倍 フタテンヒメヨコバイ アドマイヤー水 1,000倍	
5	上 中 下	新梢伸長期	芽 か き 誘 引 花穂の整形 摘 心	コナカイガラムシ類 若 齢 幼 虫 ハダニ類 アブロードフ 1,000倍 ピラニカ水 2,000倍 べと病、晩腐病 灰色かび病 クワコナカイガラムシ ペンコゼブフ 1,000倍 ロブラール500アクア 1,000倍 スプラサイド水 1,500倍 べと病 灰色かび病 コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フェスティバルM水 1,000倍 ゲッター水 1,500倍 スタークル顆粒溶 1,000倍	ハダニ類 マイトコーネフ 1,000倍	灰色かび病の発生が多い気象条件下では早期防除の徹底を図る。 コナカイガラムシ類の多い圃では5月上旬の防除を幹、主枝、 側枝中心に徹底する。 コウモリガ防除のため、園内外および株元の除草を徹底する。 ダニ類、カイガラムシ類はかけむらのないよう葉量を十分散布す る。 べと病の多発した圃では初期防除の徹底を図る。 発生を見てからの防除は困難である。 スタークル顆粒溶、モスピラン溶は開花後から袋掛けまでの散 布では果粉が溶脱するので使用しない。
6	上 中 下	開 花 期 果 実 大 豆 大	第1回ジベレリン処理 (ピオーネ・藤稔・紫玉) 粒 間 引 第2回ジベレリン処理 (ピオーネ・藤稔・紫玉) 玉 直 し	灰色かび病、晩腐病 うどんこ病、褐斑病 フタテンヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ ポリベリン水 1,000倍 オルトラン水 1,500倍 晩腐病、べと病、 褐斑病、さび病 アミスター10フ 1,000倍 又は ストロビードライフ 3,000倍 チャノキイロアザミウマ ハマキムシ類 スカウトフ 2,000倍 晩腐病、べと病、 褐斑病、さび病 アミスター10フ 1,000倍 (成熟期の遅い緑色系ぶどうのみ) 又は ストロビードライフ 3,000倍 チャノキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ ハダニ(カンザワ・ナミ) コテツフ 2,000倍	クワコナカイガラムシ スプラサイド水 1,500倍 (コナカイガラムシ類若齢幼虫) 又はアブロードフ 1,000倍 ハダニ類 コロマイト水 2,000倍	アミスター10フ及びストロビードライフとスプラサイド水と の混用は葉害を生じることがあるので避ける。 アミスター10フは収穫45日前、ストロビードライフは収穫14 日前までの使用とする。 さび病にはストロビードライフ3,000倍で登録あり。 (ロザリオピアントは葉に葉害が発生する恐れがあるため使用し ないこと) モモノゴマダラノメイガの発生に注意する。 毎年うどんこ病の多発する圃では5~6月を重点にトリフミン 水の2,500倍液を散布する。 緑色系のブドウはうどんこ病の発生に注意する。 ホコリダニの類の発生に注意する。 コロマイト水は高温時の散布を避ける。 袋掛け前はマスカット噴口のような細霧で散布し、果粉の溶脱を 防ぐ。
7	上 中 下	果粒軟化・着色始め	袋 掛 け 副 梢 管 理 ビニール除去 除 草	<袋掛け後> べと病、さび病 クワコナカイガラムシ ICボルドー66D 50倍 スミチオン水40 1,000倍	<袋掛け後> チャノキイロアザミウマ コナカイガラムシ類 モスピラン溶 2,000倍 又は スタークル顆粒溶 1,000倍 ハダニ類 カネマイトフ 1,000倍	袋掛けが7月中旬以降でべと病の発生が多い場合には、果房の汚 染に注意しながらホライズンドライフの2,500~5,000倍液又は ランマンフの2,000倍液を散布する。 スミチオン水40の使用は収穫21日前までとする。 べと病、さび病に対しては での薬液を十分使用し、葉裏を重点 に散布する。 ハスモンヨトウは若齢幼虫期に防除する。
8	上 中 下	成 熟 期	防 風 対 策 かん水 収 穫 礼 肥 施 用	べと病、さび病 ICボルドー66D 50倍	ケ ム シ 類 デルフィン顆粒水 1,000倍	デルフィン顆粒は枝葉を中心に散布し、BT剤として収穫前日ま での使用で回数も4回可能です。
9	上 中 下		堆肥の製造、確保	<収穫後> ブドウトラカミキリ スミチオン水40 1,000倍	べ と 病 3-3~4-3式ボルドー液 又は ICボルドー66D 50倍	コナカイガラムシ類の多発圃では、収穫後も防除を行い、越冬密 度を下げる。 クワコナカイガラムシの防除には、スミチオン水40を主枝、垂主 枝に散布する。
10	上 中 下		かん水		ブドウトラカミキリ ダズバン乳40 100倍	ブドウトラカミキリ、 クビアカスカシバ は、 主幹、主枝、延長枝 を重点に散布する。
11	上 中 下	落 葉 期	落 葉 の 処 分 園 の 清 掃 新 植 ・ 改 植			
12						

農業適正使用基準

農薬名	使用時期	使用回数	備考	農薬名	使用時期	使用回数	備考
ICボルドー66D	-	-		ロブラール500アクア	収穫14日前まで	3	
アドマイヤー水	収穫21日前まで	2	ネオニコ	デルフィン顆粒水	発生初期 (収穫前日まで)	4	BT剤
アブロードフ	収穫30日前まで	2		トリフミン水	収穫7日前まで	3	EBI
アミスター10フ	収穫45日前まで	3	開花前薬害ストロビルリン	フロンサイドSC	収穫21日前まで	1	土壌灌注
オルトラン水	収穫30日前まで	2		ペンコゼブフ	開花前まで	2	施設栽培(トンネルを含む)
ゲッター水	開花直前~落葉期	3	収穫75日前まで	フェスティバルM水	開花前まで	2	施設栽培(トンネルを含む)
コテツフ	収穫14日前まで	2		ベンレートT水20	休眠期	1	
スカウトフ	収穫21日前まで	3	合ピレ	ホライズンドライフ	収穫21日前まで	3	
スタークル顆粒溶	収穫7日前まで	2	ネオニコ	ベフラン液25	休眠期	1	
ストロビードライフ	収穫14日前まで	3	ストロビルリン	ポリベリン水	開花期~幼果期 (収穫60日前まで)	2	イミノクタジン
スプラサイド水	収穫14日前まで	2		モスピラン溶	収穫14日前まで	2	ネオニコ
スミチオン水40	収穫21日前まで	2*	大粒種(*生育 期は2回) MEPとし ては4回 (萌芽後 は2回)	ランマンフ	収穫14日前まで	3	
石灰硫黄合剤	発芽前	-					
ダズバン乳40	休眠期(発芽前)	1					

使用時期から見たダニ剤一覧表

使用時期	回数	農薬名	希釈倍数	卵	成虫	速効性	残効性	備考
発芽前		石灰硫黄合剤	7倍			速		
収穫30日前まで	1	ピラニカ水和剤	2,000倍			速		大粒種に限る
収穫21日前まで	1	マイトコーネフロアブル	1,000倍			速		
収穫14日前まで	1	カネマイトフロアブル	1,000~1,500倍			速		
収穫14日前まで	2	コテツフロアブル	2,000倍			速		
収穫7日前まで	2	コロマイト水和剤	2,000倍			速		
収穫7日前まで	1	バロックフロアブル	2,000倍		x	遅		

植物成長調整剤の処理時期および濃度

品 種 名	2回 処理法	時期	濃 度	
			第1回目	第2回目
ピ オ ー ネ		時期	満開時~満開3日後	満開10~15日後
			濃度	ジベレリン(12.5~25ppm) (+)フルメット(2ppm)
ベ ー リ ー A		時期	満開3~5日後(落花期)	
			濃度	ジベレリン25ppm+フルメット10ppm
ベ ー リ ー A		時期	満開予定日約14日前	満開約10日後
			濃度	ジベレリン100ppm (+)アグレプト液剤 1,000倍(+フルメット2ppm)

薬剤散布前に農薬のラベルを熟読し、適用作物、散布濃度・時期・回数に十分注意し、使用基準を守りましょう。

肥料、農薬の注文は皆さまのJA岡山へ

協力 岡山農業普及指導センター

ぶ ど う の 作 業 防 除 暦

(品種：ピオーネ、ベリー-A、藤稔、紫玉、キャンベル、ネオ・マスカット)
農薬の適正使用基準を守り安全・安心な果物を生産しましょう！
(栽培管理日誌を記帳しましょう！)

平成20年度版

作成 J A 岡山
協力 J A 全農おかやま
作成日 平成19年11月16日

薬剤散布前に農薬のラベルを熟読し、適用作物、散布濃度・時期・回数に十分注意し、使用基準を守りましょう。

肥料、農薬の注文は皆さまのJ A岡山へ

協力 岡山農業普及指導センター